

2 蓬萊山図 鈴木百年 一幅

明治十五年（一八八二）頃
絹本着色
本紙一六一・五×八七・〇

不老不死の神仙が住むという蓬萊山は、長寿の吉祥画題として日本でも古くから描かれ、同じく長寿を象徴する鶴や亀を配し、豪華な楼閣を描き込むのがその定型であった。しかし本図では、岸壁に押し寄せしぶきをあげる高波と雄々しい老松によって、仙人以外は立ち入ることのできなかった（『史記』封禪書）という絶海の孤島蓬萊山を示し、その岸边に舞い飛ぶ鶴に焦点を当てている点が新鮮である。画賛には作者自身により、描いた蓬萊のイメージが記されている。

作者の鈴木百年（二二八〜九二）は、京都の生まれで幼名甚之丞、諱は世寿、字は子孝、百年のほかには

大椿翁と号した。「今蕭白」と呼ばれ京都で活躍した鈴木松年はこの百年の子である。幼少の頃から絵を得意とし、十四歳で天文学者の父鈴木図書より百年の号を与えられ、画家の道に進んだという。独学で絵を学び、特定の画派によらない画風を身につけた。また儒学者山田梅東に漢詩を学び、その素養をいかした文人画をよくした。本図は、明治十五年（二八八二）に龍池会より買上げられたとの伝来を持つ。

（賛文） 老松横岸鶴飛辺 知是蓬萊第幾湾

遙聴仙宮奏天樂 玉笙声度碧波間



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan